

本会議から付託された議案1件を審査するため、令和3年2月3日に文教福祉委員会を開催しました。

## 議案第1号 令和2年度総社市一般会計補正予算（第11号）

### ～内容～

新型コロナウイルスワクチン接種体制の確保と接種本体に係る経費の計上が主なもの。

### ～結果～

次のような審査の結果、全員一致で**原案を可決**すべきであると決定した。

### ～質疑～

**問：予防接種健康被害調査委員は誰を考えているのか。また、職務内容はどうか。**

答：現行の予防接種で既に設置されている委員会の枠組みを活用するものであり、メンバーは、川崎医科大学付属病院のワクチンの専門家である中野教授、吉備医師会の平川会長と高杉理事、備中保健所の所長、副市長の5名である。職務は健康被害者や関係者への聞き取りを行い、今後の対応について協議を行う。その協議結果を厚生労働省の審議会へ報告することとしている。

**問：市独自の医療従事者への協力金の趣旨はどうか。**

答：新型コロナウイルスワクチンの円滑な接種のためには、医療従事者の人員確保と協力が不可欠であり、医療機関での個別接種、さらには集団接種会場の接種に協力をお願いするものである。

**問：ワクチン接種サポート業務はどのようなものか。また、委託先はどのようなところか。**

答：ワクチン接種の予約のためのコールセンター業務と接種の事務補助業務である。約8名程度の業務である。委託先は、受付業務等に精通している旅行会社が考えられる。

**問：川崎市や練馬区など、接種体制は自治体によって違うが、本市はどのような形を考えているのか。**

答：本市は、個別接種と集団接種を組み合わせた体制を考えており、練馬区に近い体制である。医師、看護師、薬剤師、歯科医師の医療スタッフと、ワクチン接種サポート業務のスタッフ、市職員で対応することとしており、それぞれの役割分担を詳細に詰め、体制の確保に努めたい。

**問：濃厚接触者等に対する支援はどのような効果があると考えているのか。**

答：濃厚接触者は保健所によりPCR検査が実施されるが、それに加え本市では、クラスター発生時等にはその濃厚接触者の家族等にPCR検査を受けてもらうことと、宿泊支援により生活を分けることが、家庭内感染を防ぐ効果があると考えている。